

---

# 関市立関商工高等学校

校長 中原 泰男

学校住所 岐阜県関市桐ヶ丘一丁目1番地 電話 0575-22-4221

---

## 1 会議の名称 第3回関商工高等学校運営協議会

- 2 会議の構成 委員
- |              |                       |          |
|--------------|-----------------------|----------|
| 北瀬 美幸        | 関美濃保護区保護司会            | 保護司      |
| 杉原 茂男        | 中部学院大学 特命学長補佐         | 入試広報部長   |
| 田中 裕美        | 国際ソロプチミスト関            | 前会長      |
| 波多野篤志        | 青協建設株式会社              | 取締役副社長   |
| 森 有生         | 関青年会議所                | 理事長      |
| 山田美穂子        | 関印刷有限会社               | 取締役社長    |
| 後藤 正興        | 関市立関商工高等学校            | P T A 会長 |
| アドバイザー 長屋 千秋 | 各務原市産業活力部商工振興課人材確保相談員 | (元本校副校長) |
| 山田 雄治        | 朝日大学経営学部経営学科教授        | (元本校校長)  |
- (敬称略 50音順)

学校側	中原 泰男	校長
	蒲 尚胤	副校長
	長尾 成広	事務長
	服部 幸広	教頭 (全日制商業)
	安江 博	教頭 (全日制工業)
	林 剛史	教頭 (定時制)
	林 秀記	教務主任 (全日制商業)
	野口 晃弘	教務主任 (全日制工業)
	石原 桂	教務主任 (定時制)
	吉田 英生	生徒指導主事 (全日制工業)
	野田 泰宏	進路指導主事 (全日制商業)
	安藤 正夫	商業科主任 (全日制)
	牛丸 憲一	工業科主任 (全日制)

- 3 会議の目的 学校に在籍する生徒の保護者及び地域住民の学校運営への参画及び連携の強化を推進することにより、学校、保護者及び地域住民が相互に信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善及び生徒の健全育成に取り組む。
- 4 会議の開催 令和6年1月29日(月) 13:30~14:30 至誠館2階  
委員7名 アドバイザー1名 学校13名 出席 アドバイザー1名欠席
- 5 会議の概要
- (1) 全日制的教育活動の説明
    - ・自己評価について(教務部、生徒指導部、進路指導部、商業科、工業科)
    - ・令和5年度教育の重点および学校経営計画の達成度について
  - (2) 定時制的教育活動の説明
    - ・自己評価について
    - ・令和5年度教育の重点および学校経営計画の達成度について
  - (3) スクールポリシーについて
  - (4) 関商工100年未来構想について
  - (5) ご意見・ご提言

## 6 5 会議の概要 (5) ご意見・ご提言

- ・ 関商工には県立高校にはない思い入れがある。マナーや礼儀作法など今までの先輩からの良い伝統を受け継いでいくとよい。企業とのコラボも充実している点は良いことである。部活動なども含めて全国レベルの実績があり、それを目にして生徒も充実していると思う。生徒たちが誇りをもって、また目標をもって過ごしてほしいと思う。
- ・ 人口減少が進むなか、少子化などについては学校が考えるだけでなく、企業誘致を進めるなど市がもっと考えるべきこともあるのではないか。
- ・ 関商工の未来については、中濃地区には高校が多いこともあり、県の動きをみて考えていくべきである。関市もしっかりと関わっていくべきである。
- ・ 先生方の熱意に感謝する。少子化の問題や ICT の利用など体制も変わってきた。市立学校のメリットやデメリットがあると思うが、商業と工業が同じ学校にあるなどのメリットを伸ばすべきである。
- ・ 自己評価について話を聞かせてもらい、学校では今の時代に合わせてやれることをしっかりとやってもらっていると感じた。今後少子化が進むことから、本校を進路先として選んでもらえるためにどうすればよいかといった問題の解決は、探しながらやっていくしかないと思う。今後の関商工を楽しみにしている。
- ・ 先生方は、取り組まれた内容に自信を持ってほしい。本校は関市を支える人材を輩出している。先ほどの自己評価の内容で資格試験の受験者が減少しているとの話があったが、受験料が高額であることも一因である。それならば企業から受験料の補助を受けて、生徒の負担を少しでも減らすといった方策も考えられる。また家庭学習の時間が少ないという話もあったが、これだけ部活動に時間をかけていけば当然である。これに対して学習効率を上げるために、午睡時間を設けるなどの方策も考えられる。いずれにしても魅力ある取り組みをお願いしたい。

## 7 会議のまとめ

- ・ 今年度の学校の取り組みの報告を行い、委員の皆様から多くのご意見・ご提言をいただいた。いただいたご意見・ご提言を令和 6 年度の学校運営の改善に活かしていく。